



Title: 本日岩波文庫創刊 (88年前)

❖ 日暮れに空を見よう

このところ日没からしばらく、西の空低く金星と木星が並んで光っています。全天で太陽と月を除くと最も明るい天体ふたつが、7月1日には最接近しました。並ぶと金星の明るさが際立ちますね。

惑星は地球との距離が変化するし、地球から見て太陽の光が当たる面積も変わるので、見かけの光度も大きく変わります。木星は外惑星（地球より太陽から遠い惑星）なので、夕方西の空に見えるということは太陽を挟んで地球の反対側にいるわけで、現在は最も明るい時の3分の1位の明るさになっています。それでもマイナス1.7等級でシリウスより明るいのですが、何しろ金星はちょうど今日最大光度を迎えるのでとてもかないません。マイナス4.5等級だそうです。

1.7等と4.5等なら明るさはおよそ2.6倍かと思った方、残念でした。星の光度の等級は対数スケールで、6等星と1等星の明るさはちょうど100倍違うのです。ということは……私の計算だと金星は木星の約10倍になりましたが、間違っていたらごめんなさい。

目を転じて南の空を見ると、さそり座の頭の先に土星が見えています。土星と金星・木星を結ぶ中程には、オレンジ色のアークトゥルス（うしかい座）と青白いスピカ（おとめ座）のふたつの1等星も輝いています。夜空を見上げるのに良い季節になってきましたね。今夜、晴れるといいですが。

天文学の最新ニュースを知るには国立天文台のホームページを検索するのが一番かも知れませんが、図書館にも、基礎知識から専門知識まで、そして驚くほど鮮やかな写真集など硬軟取り混ぜていろいろな資料が揃っています。分類記号の440番台（天文学）、その中でも443（恒星）や445（惑星）などの棚をぜひ探してみてください。

❖ 貸出の延長について

図書館から借りた本が2週間の期限内に読み切れなかったもので、もう少し借りていたい。よくあることです。そんな時は、カウンターで「延長お願いします」と言ってください。その本に別の人から予約が入っていたり、市外の図書館から取り寄せた本でなければ、1回だけ延長が可能です。

ここで「えっ、そうなの？」と疑問に思った方がいるかも知れませんね。たぶん疑問点は2つ。一つは、「カウンターで」というところ。電話やメールじゃダメなの？どこそこの図書館では電話でOKなのに、と。私も利用者のひとりとして電話でもいような気がします。でもまあ、こうも思います。たいてい借りている本は複数で、どうせ他の本は返しにいくんだし、まあいいか、と。

もう一つは、「1回だけ」という点。延長して4週間経ってもまだ読み終わっていないことだってあるじゃないか、とかですね。こちらについての個人的意見は、「それで結構」です。4週間たっても読み切れないようでは、いったん仕切り直した方がいいです。

自分の意見ばかり書いてもしょうがないですね。図書館としての回答を書きます。

身も蓋もない言い方ですが、「決まりですから」。

少し説明しますね。まず、決まりというのは本当です。図書館の貸出についての要領で決まっているのです。図書館も公の施設ですから、要領をつくるにあたっては以下のような条件を考慮しているはずですよ。

図書館の本は市民全員の財産であること。誰もがアクセス（見たり触ったり選んだり）できなければいけないこと。誰か一人が独占してはならないこと。それでも本を読むことは一般に個人的な行為であること。図書を購入する予算は有限であること、正直に言うと相当厳しいこと……。

いろいろな要素を勘案して、図書館はそれぞれに決まりをつくってきたわけです。そこから見えるのは、図書館の1冊の本を市民の誰もが利用するために、ひとりひとりの利用についてはある程度制限があっても我慢しあおう、という精神です。これこそ民主主義の精神ですよ。

押し付けになってはいけなくて蛇足の一言を。悪い決まりだと思ったら、声をあげるのも自由ですから。もっとも図書館で大声を出されると困るので、優しい声をお願いします。 （陽）